

△国語V資料

構想メモのヒント1

相手はだれ？

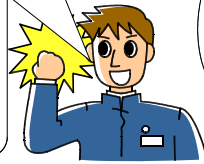
相手とは、会ったことがないのだから
出だしの言葉は、……

構成

出だし

主張（自分は相手にどうしてほしいのかな？）

何度かK君の家にいったときに会っている。
話をしたことはない。
K君が部活動に熱を入れすぎていることをよく思っていない。
大会については、話していないらしい。



説明

K君を応援したいわけ

・部活動へ取り組む姿（具体的な例）

（ ）

・大会への気持ち

（ ）

・K君に感謝していること

（ ）

相手を説得するためには、
複数の根拠や材料を挙げる

結びの言葉（お願い）



予想される疑問・反論と答え

・部活に熱中していること
を（ ）

（ ）かもしれない

←

・せめてこの大会だけは、

（ ）

期限などの条件などを示して



相手へお願いの手紙なので、結びはもう一度お願いの言葉にするとよい。



△国語V資料

構想メモのヒント2

相手はだれ？

K君の
相手とは、会ったことがないのだから
出だしの言葉は、……

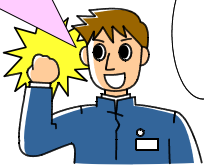
構成

出だし

突然お手紙を差し上げて、すみません。
はくは、K君と同じ部の○○です。
何度かおじゃましてるので覚えていらっしゃるかもしれません。
実は、K君のお父さん、お母さんにお願ひがあります。

主張（自分は相手にどうしてほしいのかな？）

何度かK君の家にいったときに会っている。
話をしたことはない。
K君が部活動に熱を入れすぎていることをよく思っていない。
大会については、話していないらしい。



説明

K君は、朝練を一度も休まず、（ ）

・K君は、この大会に（ ）

（ ）

・ぼくが（ ）

（ ）とき、

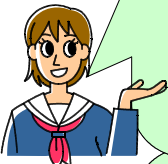
（ ）

今、部活動を続けているのはK君のおかげ。

相手を説得するためには、
複数の根拠や材料を挙げる

結びの言葉（お願い）

最後にもう一度お願いします。ぜひK君の応援に来てください。
よろしくお願いします。



予想される疑問・反論と答え

・部活に熱中していること
をあまり（ ）

思っていないかもしれない

←

・せめてこの大会だけは、
応援に来てほしい。

（ ）

期限などの条件などを示して



友人のK君は、毎日の練習に本当に頑張る、今度の新人戦に出場することになった。
ぜひ応援に来てほしい。

ハ国語V資料

「文をつなげて、文章を完成させるぞー!」

条件1

文と文をつなげるときには、なるべく接続詞を使わない。

「接続詞」って？

接続詞とは、文と文や語句と語句をつなぎ、その関係を示す働き(接続語となる)品詞です。文法1で勉強しましたね。具体的には、次のように種類分けできます。

順接(それで・だから・すると)

前を受けてその順当な結果が次にくることを表す。

例)そこは危険だ。だから近寄るな。

逆接(しかし・けれども・ところが)前とは逆になる事柄が次にくることを表す。

例)彼は小柄だ。けれども、力持ちだ。

並立・累加(また、そして・しかも)対等に並べたり付け加えたりすることを表す。

例)雨が降りだした。しかも傘を忘れた。

対比・選択(または・それとも)

比べたり選んだりすることを表す。

例)コーヒーがいいですか。それとも紅茶？

説明(つまり・なぜなら・ただし)前の事柄の説明や補いを表す。

例)入場料は無料です。ただし、小学生まで。

転換(さて・ところで・ときに)話題をかえることを表す。

例)暑いなあ。ところで、今何時？

(例)今日は、一日中雨だった。傘が、僕は部屋で本を読んでいた。

条件1から、接続詞の「だから」は使いません。しかしこのままだと、前の文と後の文の続き方が変ですね。そこで、文の表現自体を変えなければなりません。

条件2

一文が長すぎないようにする。

長い文は、二つにするか、表現を変えます。

「自分たちでいろいろ考え、工夫してみよう。」文を長くつなげてはいけません。

手順を頭に入れてから始めよう。

ワークシートにはったセンテンス・カードを並べ替えながら、構成をもう一度確認する。

・付箋なので、何度でも張り直せるよ。
・構成を考え直して、構想メモの時と変わってもかまわないよ。

センテンスカードに書かれた文同士をつながりがはつきりしているところから、表現を直しながらつなげていく。

・最初の部分からつなげなくてもいいんだよ。
・一番やりやすい所から始めよう。

いくつかのまとまりができたなら、それぞれのつながりを考えながら、言葉や文を追加したり、変更したりしながらつなげていく。

・二つか三つの文をつなげたら、それぞれをつなげていけるように考えるといいよ。
・順番につなげるようなら、一文ずつつなげていってもかまわないよ。

段落ごとのまとまりを考え、最低限必要のところだけは接続する語句を使って、段落同士をつなげる。

・順接の接続(それで)並列(また)だったら使わないでもそのままつながるよ。
・逆接の場合(しかし・けれども)に、段落の頭に置くときには使おう。

全体を読み直して、修正を行う。(清書は行わない)

・清書はしないでいいです。
・あまり見づらくなったら、そこだけ付箋をはりかえましょう。



△国語V資料

(文のつなぎ方の例)

二年 組 名前)

出だし

突然お手紙を差し上げて、すみません。
ぼくは、二中テニス部で現在部長をしている○○です。
A先輩にお願いがあって、お手紙を書きました。

自分の主張すること(ピンク色のセンテンス・カード)

僕たちテニス部の練習を、顧問の△△先生のかわりに見てもらえないでしょうか。

根拠となる事柄) 説明や予想される疑問・反論とその答え 緑色のセンテンス・カード)

僕たち二中テニス部は、^{ました。}大会が三週間になりません。

県大会に出場することが決まり、大会まで三週間になりません。

絶対

ベスト4に入ろうと、選手全員が燃えて練習に取り組んでいました。

しかし、今、僕たちテニス部は重大な危機に直面しています。

もうご存じだと思いますが、

顧問の△△先生がケガをして入院してしまったのです。

二ヶ月間は退院できないそうです。

県大会が近いのに、指導してくれる人がいなくなりました。

A先輩は、中学校時代に関東大会で優勝し、高校でも活躍したことを聞いています。

顧問の△△先生もA先輩なら安心して任せられるとおっしゃっています。

顧問の先生がお願いをした^{とき}、断られた^事は知っています。

確かに大学受験の勉強で忙しいと聞いています。

毎日とは言いません。

せめて県大会が終わるまでの土日だけでも練習を見ていただけませんか。

それだけでも僕たちにとってはとても助かります。

結び

最後にもう一度お願いします。ぜひ、僕たちの練習を見てください。

^ 国語V資料

「どんな工夫をしているか」

表現の工夫を整理する観点

表現自体の工夫（言葉遣い・文末表現）	班	昇
相手や目的を考えた言葉遣いにして		
長い文は二つの文にしている		
余分な接続詞を使わないようにしている		
重なった表現の所は削除している		
相手や目的を意識した工夫		
より説得力が増すように主張の文を置く位置や数を工夫している		
相手に納得してもらえるように文の順序を変えている		
相手の考えや気持ちを意識して表現を変えている		
相手の考えや気持ちを意識して課題に書いてないことも書き加えている		
その他		

自分の文章の工夫点・特徴

^ 国語Vワークショップ

二年 組 名前

「説得力のある文章を書けるようにするための目当てを作る」

説得力のある文章を書けるようにするための目当てを作ります。
「えっ」なんてそんなことするかって？それは、これまで皆さんが勉強して力をつけたことを、これから文章を書くときに100%発揮できるようにするた
めです。

目当ての形式

- ・ よくできていた点をさらに伸ばしたい場合
さらにも () を伸ばせるように
します。
- ・ よくできなかった点をこれからできるようになっていきたい場合
() ができるといい
です。
- ・ うっかりしてしまいそうな点について忘れないようにしたい場合
（ ） ()
を忘れないように
します。

ハ国語V自己評価プリント

「自分の書く力の成長を確かめよう!」

二年 組 名前 ()

第一時間目

よくできた・とても思う ()
 だいたいできた・思う ()
 できなかった・あまり思わない ()

説得力のある文章を書く力を身に付けたいと思った。

文と文をつなげたり、語句や文を付け加えたり換えたりしながら、筋の通った物語を作ることができた。

文を作るときに、主語・述語や修飾語・被修飾語などの関係を意識しながらできた。

この時間の学習をして、文章を書くことに対する気持ちはどう変わったかな?

前は、

今は、

第二時間目

よくできた ()
 だいたいできた ()
 できなかった ()

相手や目的を考えながら、センテンス・カードに書くことと取り組めた。

自分の主張や相手を説得するために必要な事柄が入ったセンテンス・カードを作ることができた。

文を作るときに、文末表現や主語・述語、修飾語・被修飾語などの関係を意識しながらできた。

この時間の学習でセンテンス・カード作りについて、どんなところが向上したかな?

前は、

今は、

第三時間目

よくできた・とても思う ()
 だいたいできた・思う ()
 できなかった・あまり思わない ()

説得力のある文章にするために、相手や目的によって表現を変える必要があると思った。

相手や目的・場面を意識しながら、付け加えたり、表現を変えたりして、文と文をつなげることができた。

それぞれの文や段落の関係を考えながら、文章を作ることができた。

この時間の学習で、説得力のある文章を書くことに対する気持ちは、どう変わった?

(とても変わった・変わった・少し変わった・変わらない)どれかを ()で囲む

第四時間目

よくできた・よく分かった ()
 だいたいできた・だいたい分かった ()
 きなかつた・あまり分からなかつた ()

説得力のある文章にするために、自分から目当てを作るうとできた。

説得力のある文章を書くために、自分に合った目立てが作れた。

相手や目的に対応して表現や展開がどう異なるのが分かった。

単元全体

とても思う・よく分かった ()
 思う・だいたい分かった ()
 あまり思わない・分からなかつた ()

相手に納得してもらったために作った目当てをもとに、これから文章を書くことと

相手に説得できる文章を書くための方法が分かり、前よりも文章を書く力が身に付いてきた。

文の成分の順序や対応によって表現がどう変わるかや相手や目的に応じて文章の展開の違いがあることが分かった。

この単元の学習を通して、書く力に関して自分の力のどこを発掘できたか?成長したか?

